

平成28年度全国学力・学習状況調査における調査活用委員会の報告

本年度も悉皆調査が行われ、新城市では小学校13校(小学校6年生対象)、中学校6校(中学校3年生対象)が調査を実施しました。

そこで、昨年度の調査結果と本年度の調査結果とを比較し、調査活用委員会で分析・検証を行いました。

平成27年度と平成28年度の学力・学習状況調査の結果を比較し、今後の学習指導の取り組みについて、新城教育として次のような授業改善を行っていきたいと考えています。

国語

授業で習得させるべき事項を明確にし、系統的に学習を積み上げる。

《基礎・基本の定着》

○基本的な言語事項の定着を図るために、帯学習等の工夫により、補充学習の時間を確保する。

○「書くこと」の指導を計画的に行い、その学びを活かす発表の場や機会を教育活動全般に位置づける。

《活用する力の向上》

○作文以外にも、パンフレットやレポート作成、手紙文、新聞作り等の実用的な表現活動を様々に展開し、情報収集力、活用力、発信力を養う。

○朝の読書や図書館利用の一層の充実を図り、「一言感想」「おすすめの一冊」等、個の学びを仲間に広げる学習を行う。

《学習意欲の喚起》

○教育機器の活用やグループ活動等、授業形態の多様化を図る。

○授業と結びつけた家庭学習や自主学習の内容や方法を提示する。

算数・数学

算数・数学の教科としての系統性を踏まえた上で、算数的活動・数学的活動を生かした指導の充実を図る。

《基礎・基本の定着》

○概念・用語・定義等の基礎知識を確実に理解した上で、基本的な技能を習得するために繰り返し練習する機会を設ける。

○日常の事象と結びつけた学習活動を通して、数・量・図形についての感覚を豊かにする。

《活用する力の向上》

○読み取る活動や根拠を基に説明する活動を通して、思考力・判断力・表現力を養う。

○法則を発見する活動等を通して、算数・数学のよさが実感できる授業づくりをする。

《学習意欲の喚起》

○ティームティーチングや課題学習など、個に応じた学習形態や学習課題を設定する。

○個々の疑問や気づきを生かした授業づくりにより、学ぶ意欲を高める。

<資料>平成28年度小学校6年生と中学校3年生の結果からの状況

(1) 平成28年度全国学力・学習状況調査結果概況

	平均正答率(%)	
	小学校6年生	中学校3年生
国語A (主として知識)	全国 72.9	全国 75.6
	新城市 やや下回る	新城市 同程度
国語B (主として活用)	全国 57.8	全国 66.5
	新城市 やや下回る	新城市 同程度
算数・数学A (主として知識)	全国 77.6	全国 62.2
	新城市 やや下回る	新城市 同程度
算数・数学B (主として活用)	全国 47.2	全国 44.1
	新城市 やや下回る	新城市 同程度

(2) 平成28年度学習状況調査(児童質問紙)の傾向

児童・生徒への質問	児童の回答の状況	生徒の回答の状況
今住んでいる地域の行事に参加していますか	全国と比べて、児童・生徒ともに、参加している割合がかなり上回る。	
自分にはよいところがあると思いますか	「思う」「どちらかといえば思う」と答えた児童・生徒ともに全国と比べてやや下回る。	
朝食を毎日食べていますか	「食べている」「ほぼ食べている」と答えた児童・生徒が全体のほとんどを占めている。	
授業中、分からないことがあったときどうしますか	「その場で先生に尋ねる」と答えた児童が全国と比べて上回る。	
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	「寝ている」「ほぼ寝ている」と答えた児童の割合は、全国と比べるとほぼ同程度。しかし、生徒の割合は全国と比べ上回る。また「11時より前に寝る」と答えた生徒も全国より上回っている。	
学校の授業の予習・復習をしていますか	全国と比べ、児童・生徒ともに家庭での予習の時間がかなり少ない。ただし、復習は児童・生徒ともに全国との差はやや小さい。	
国語の勉強は好きですか	全国と比べ、「好き」「まあ好き」と答えた生徒は、かなり高い。国語の授業に対するその他の質問についても、プラスの意見が全国を上回る。	

児童質問紙調査の結果から、地域の行事に積極的に参加する児童生徒の姿を再確認することができました。とくに中学生では、地域社会の中でボランティア活動をしている割合も全国や愛知県と比べて高い結果となっています。各学校での「三宝」を活用した教育活

動や市全体としての「共育」の取り組みの成果だと考えられます。

小学校においては、「授業中分からないことがあったときどうしますか」の質問に「その場で先生に尋ねる」と答えた児童が多いことや「先生は分かるまで教えてくださいか」の質問に「はい」と答えた児童の割合が高いことから、先生と児童が良い関係を築けていることがうかがえます。

生活が不規則になりがちな中学生ですが、「共育」の合言葉にもなっている「早寝早起き朝ごはん」が比較的定着しているという結果になりました。生活基盤の充実が、国語の授業だけでなく、学校での学習に対する前向きな姿勢として表れています。

一方、家庭での予習・復習にかける時間が少ないことは継続的な課題として残されています。家庭学習の具体的な取り組み方を示すなど今後も児童生徒に対して働きかけをしていく必要があります。また、自己肯定感がもてない児童生徒がやや多いことも課題と考えられます。学級やグループでの活動の中で、認め合える場面を作ることなど、「どう活動させるか」を考えながら授業作りを行うことが大切です。

新城の児童生徒のよい面を伸ばしながら、さらに学力の向上を図りたいと考えています。